

下書きから パラグラフライティングを 目指す

田川拓海
@dlit

筑波大学附属図書館
ライティング支援連続セミナー2024
2024/10/24

アカデミックライティング とは

学術的な文章を書くこと

そのための知識・技術も含む

⇒特に研究論文を書くための知識・技術

今日の方針

1. **考え方、コツ、キーワード**に触れる
2. これから**良いトレーニング**を積み重ねていくためのきっかけ

※今日だけで覚えたり身に付けたりしなくて良い

今日のポイント

1. アカデミックライティングの重要な技術として
パラグラフライティングがある
2. うまく下書きするとパラグラフライティングがやりやすくなる
3. コンピューターで書くことを想定している

今日話すこと

- A. 下書きとしての **アウトライン**
- B. アウトラインから **パラグラフ (段落)** を使った文章へ
- C. 文章全体の構成など

大学でのレポートの位置づけ

レポート:

主に授業で課される文章作成課題

【役割】研究、論文作成の(部分的な)練習

問題の整理、先行研究のまとめ、
データ収集、考察、...

※レポートはほかにも色々なものがある

先へ進む前に

First-year composition prepares students for academic writing
(Bad Ideas About Writing pp. 18-23)

アカデミックライティング（特に形式的な技術）だけが重要なわけではない

先へ進む前に

議論の構成や論理展開にも分野による
違いが意外とある

⇒ 専門の授業やゼミなどでレポート・論文の
書き方が示されたらそちらを優先

学問は基本的にローカルルール優先

先へ進む前に

議論の構成や論理展開にも分野による
違いが意外とある

⇒ (専門に進む前に) 万能のライティングの能力を身に付けるという考え方は**しない**

パラグライダーライティング (体験版)

パラグラフライティング

パラグラフライティング:

パラグラフ(段落)という単位を使って文章を構成する書き方

1. パラグラフ=段落(このセミナーでは)
2. パラグラフの作り方にルールがある

パラグラフライティング



おすすめのテキスト

松浦年男・田村早苗 (2022)
『日本語パラグラフ・ライティン
グ入門——読み手を迷わせな
いための書く技術』研究社。

パラグラフライティング

パラグラフライティングは「パラグラフ」（国語で言う「形式段落」にあたります）を利用して情報の構造を示す書き方です。

（松浦・田村 2022: v）

「形式段落」＝「意味段落」にして内容のかたまりと配列をすっきりさせる考え方・書き方

パラグラフライティング

A. 主題文 (topic sentence):

段落が何について書いてあるかを**代表**して述べる (一番重要とは限らない)

B. 支持文 (supporting sentence):

主題文を**サポート**する

詳しく説明する、具体例を挙げる、など

cf. まとめの文 (concluding sentence)

パラグラフライティング

主題文

支持文

健君は根っからのスポーツマンだ。夏は水泳、冬はスキー、春と秋はテニスと、日焼けのさめる間がない。いちばん年季を入れたのはスキーだという。

主題文

支持文

一方僕は、スポーツはからきしダメだ。スキーは中学校の修学旅行で骨折して以来行ったことがないし、水泳では10メートルも泳げない。運転が苦手なのもきっとそのせいだ。

パラグラフライティング

日本語ではプロが学術的な文章であっても主題文の位置が最初とは限らないので、読むときは気をつける（今後変わるかも）

⇒ 英語では基本的に**段落の最初**にある

⇒ 日本語でも**最初に書く**のが良い

パラグラフライティング

パラグラフ・ライティングの基本は「1つのパラ
グラフに書かれることは、1つのまとまりにす
る」です。

（松浦・田村 2022: 5, 太字を下線にした）

「**主題文を1つのパラグラフにつき1つにする**」こ
とで実現できる

パラグラフライティング

先に考える

健君は根っからのスポーツマンだ。夏は水泳、冬はスキー、春と秋はテニスと、日焼けのさめる間がない。いちばん年季を入れたのはスキーだという。

先に考える

一方僕は、スポーツはからきしダメだ。スキーは中学校の修学旅行で骨折して以来行ったことがないし、水泳では10メートルも泳げない。運転が苦手なのもきっとそのせいだ。

パラグラフライティング

後で足す

健君は根っからのスポーツマンだ。夏は水泳、冬はスキー、春と秋はテニスと、日焼けのさめる間がない。いちばん年季を入れたのはスキーだという。

後で足す

一方僕は、スポーツはからきしダメだ。スキーは中学校の修学旅行で骨折して以来行ったことがないし、水泳では10メートルも泳げない。運転が苦手なのもきっとそのせいだ。

パラグラフライティング

健君は根っからのスポーツマンだ。夏は水泳、冬はスキー、春と秋はテニスと、日焼けのさめる間がない。いちばん年季を入れたのはスキーだという。

一方僕は、スポーツはからきしダメだ。スキーは中学校の修学旅行で骨折して以来行ったことがないし、水泳では10メートルも泳げない。運転が苦手なのもきっとそのせいだ。

パラグラフライティング

完成版の文章を最初から順に書いていくと
いうことを目指さない(でも良い)

⇒ 支持文を挿入するほかにも、パラグラフを分割
／まとめたり、パラグラフや文を移動するといった
作業が多く、コンピューターで書くのに合っている

下書きとしての
アウトラインから
パラグラフライティングへ

下書きとしてのアウトライン

アウトライン (outline):
内容についての構造・構成の下書き



記号とインデント (+改行) を使ってキーワードや
アイデア を構造化する

下書きとしてのアウトライン

I. 記号: 同じレベルのまとまりには同じ種類の記号を使う

II. (テニスで使用される)コート

- (1) ハード
- (2) クレー
- (3) 芝
- a) グラス
- b) オムニ

厳密なルールは必要ないが記号を多くし過ぎない

下書きとしてのアウトライン

2. インデント: 細かい・詳しいレベルの情報ほどインデントする

II. コート
→ (1) ハード
(2) クレー
(3) 芝
→ a) グラス
b) オムニ

インデント: 「字下げ」
文字列の端を文書全体の端から離すこと

下書きとしてのアウトライン

3. 改行: スペースを空けることによって段落のような情報のまとまりを作る

アウトラインの分量が多くなると途中で一行空白を入れた方が見やすくなる(必須ではない)

コンピューターなら後でも挿入できる

下書きとしてのアウトライン

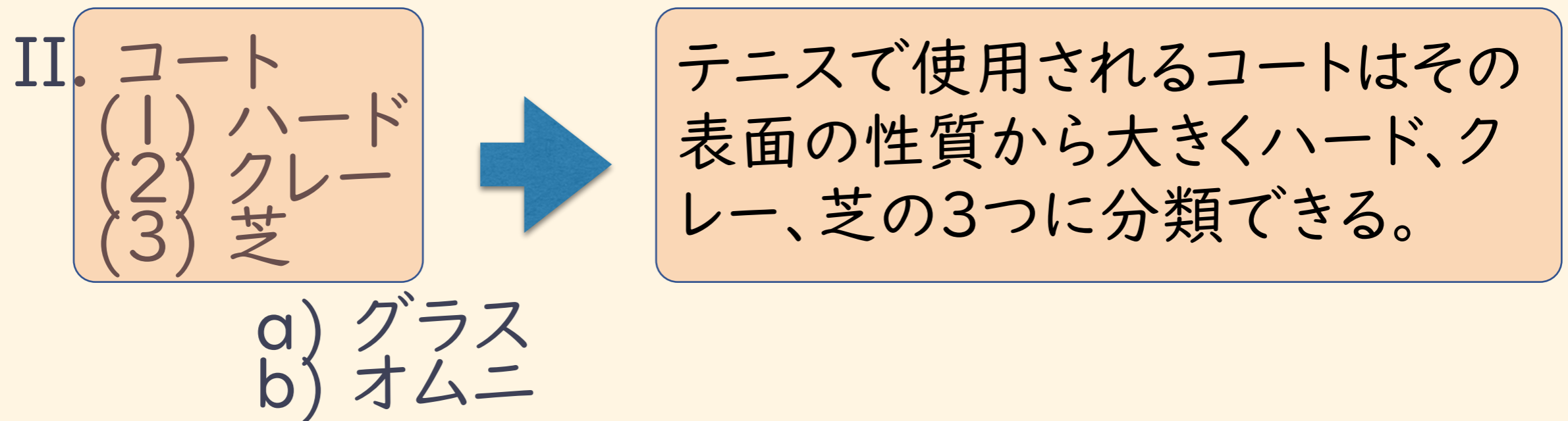
下書きを書くときに気をつけること

1. 適当で良い、完璧を目指さない
2. あくまで自分のためのもの
3. 常に暫定的なもの（修正していく）

※見た目は目次と似ているが、目次とは役割がまったく違う

アウトラインからパラグラフへ

アウトラインから主題文・支持文を作る



アウトラインの項目がそれぞれ主題になれる

アウトラインからパラグラフへ

主題文

テニスで使用されるコートはその表面の性質によって分類できる。最も硬い材質が用いられているものをハードコート、土のコートをクレーコートと言う。芝のコートは芝が天然であればグラスコート、人工の場合はオムニコートと呼ばれる。

コートの種類によってボールのはね方や適切な走り方が変わる。そのため、…。

アウトラインからパラグラフへ

アウトラインから主題文・支持文を作る

II. コート

(1) ハード

(2) クレー

(3) 芝



テニスで使用されるコートはその表面の性質によって分類できる。

ハードコートは～コートである。

クレーコートは～コートである。

芝のコートには～がある。

アウトラインの項目がそれぞれ主題になれる

アウトラインからパラグラフへ

主題文

テニスで使用されるコートはその表面の性質によって分類できる。コートによってボールのはね方などが変わるため競技性に違いが生じる。

主題文

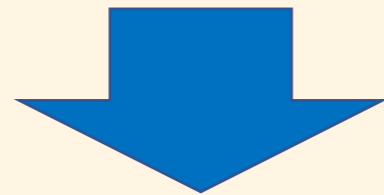
最も硬い材質が用いられているものがハードコートである。ボールが不規則なはね方をすることがなく、また走っていて滑ることがないので、方向転換が容易である。

主題文

クレーコートとは土のコートのことである。ボールのスピードが落ちるコートが多いためラリーが長くなやすい。…

アウトラインからパラグラフへ

主題文・支持文は関係によって決まるので、アウトラインから自動的にパラグラフが作れるわけではない



アウトラインの段階でキーワードやアイディアどうし
の関係が整理されるので、パラグラフにつなげやすい

実際の書き方の例

アウトラインや重要な文を書いておく

→ それを主題文にして肉付け

* 【研究ノート】 「ファイナルファンタジー」シリーズにおける魔法名

**0. はじめに

-現象の整理を行う。

-<http://d.hatena.ne.jp/dlit/20120215/1329330135>

-<http://d.hatena.ne.jp/dlit/20131119/1384817522>

**1. 対象と方法

***1.1. 記述対象

FFシリーズ1-9の魔法名

+<http://www.clockroom.net/etc/appendix001.html>

***1.2. 形態変化に関わる素性

+《対象》：値としては[+単体][+グループ][+全体]など

+《威力》：値としては[+増][+減][+小][+中][+大][+最大]など

例：ファイラ《対象[未指定]》《威力[+中]》

***1.3. 語幹の範囲と表記

**2. 接辞と語幹

***2.1. 基本的な屈折接辞 (inflectional affix) : 「-ラ」「-ダ」

- 「-ラ」 《威力[+中]》

- 「-ダ」 《威力[+大]》

- 「-ガ」 《威力[+最大]》

ただし、「ディア」に付く場合は

-ディア、ア-ディア、ダ-ディア、ガ-ディア

-レイズ、ア-レイズ

* 【研究ノート】 「ファイナルファンタジー」シリーズにおける魔法名

**0. はじめに

本稿では「ファイナルファンタジー（以下「FF」と略記する）」からの記述・分析、および他シリーズとの対照研究の準備として、し姿勢については下記拙論を参照されたい。

-<http://d.hatena.ne.jp/dlit/20120215/1329330135>

-<http://d.hatena.ne.jp/dlit/20131119/1384817522>

当初はある程度の分析とともに公開する予定であったが、「ドラ」と違って音韻論的な議論を行う必要があり、筆者一人では分析に時間をまとめておくこととした。

**1. 対象と方法

***1.1. 記述対象

FFシリーズ1-9の魔法名を対象とする。魔法（名）については下記

+<http://www.clockroom.net/etc/appendix001.html>

+<http://dic.nicovideo.jp/a/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%83%B3%E3%82%BF%E3%82%B8%E3%95%E4%B8%80%E8%A6%A7>

1-9までを対象とした理由は、筆者が8を除く1-7および9のプレイ経験することなど、便宜的なところが大きい。シリーズによってどの魔法が形態法や接辞の種類にそれほど大きな変化がないことも幸いした。似た記述が不足しているため、通時的な観点からの考察は極力行わない。シリーズに出てくる魔法名にも言及することがある。

1.2. 形態変化に関わる素性

基本的には、DQシリーズで用いた以下のものを文法的素性として<http://d.hatena.ne.jp/dlit/20120215/1329330135>を参照)。

+《対象》：値としては[+単体][+グループ][+全体]など

+《威力》：値としては[+増][+減][+小][+中][+大][+最大]など



下書きとしてのアウトライン

アウトラインの種類が複数あっても良い
⇒コンピューターだと簡単に複製できる

1. アイディアを出す／整理するため
2. 文章の下書きのため（今回はこれ）

自分に合わせてやり方をアレンジする

レポート・論文全体の構成

1. 「はじめ—本文—おわり」の**三部構成**
2. 「はじめ」「おわり」は**簡潔**で良い（重要な主張や結論も「本文」に書く）
3. **分野による違いが大きい**ので、その分野専用の書き方がある場合はそれに従う

サービス・ツールの紹介

【アウトラインエディター】

1. WorkFlowy, Dynalist, ...
2. Markdownで書ける汎用メモツール
(例: Evernote, Notion, Obsidian, ...)

【その他】

Wordやテキストエディタでもアウトラインは書ける

※下書きからの移行がスムーズなのが利点だが、出発点に戻れるのが下書きの良さなので使い方に気をつける

どうトレーニングしていくか

言語技術（語学）はスポーツに似ている？

1. **継続的**にトレーニングするのが良い
2. **トレーニング量**が必要
3. できれば**良い方法**で
4. **色々な文章**を読んだり書いたりしておく

どうトレーニングしていくか

自分に合わせてやり方を調整する

1. **分野**による違い
2. 自分の**性格・性質**
3. 今置かれている**環境・状況**

気をつけておくと良いこと

プロでもいきなり完璧な文章は書けない

1. **早めにちよつとずつ**書いてチェックする
(推敲・校正が重要)
2. **読んでくれる人**を探す・確保する